

# 地盤工学会がコンテスト

地盤工学会関東支部(國生剛治支部長)は10日(第6回)学校対抗ソイルストラクチャーコンテストを日本大学船橋校舎(船橋市志野台)で開いた。学生6チーム(約40人)が参加し、それぞれが創意工夫してソイルブリッジ(砂製の梁)を作製。その強度や精度、

新要素となった薄さなどの設計・施工能力を競い合った。今年のコンテストは昨年に引き続き、砂などによる作製を実施。コンテストでは、「ソイルブリッジの薄さ」「ソイルブリッジの実耐荷重・設計耐荷重(5kg)」「設計方法(プレゼンテーション)の

各部門に加え、各数値とそれぞれの点数評価による総合力を審査した。

コンテストには日本大学、東京大学、横浜国立大学(A、B、Cチーム)、東京都市大学の4校6チー

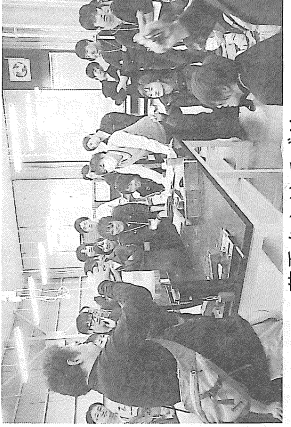
ム、社会人チーム、地盤工学会会員チーム、デジタルチームを加えた計8チームが参加。また、本田秀樹副支部長もプレゼンテーションに参加している。

開始前に國生支部長は、「今回の大会では学生だけではなく社会人チームも

参加しているが、皆さんそれぞれの経験を生かした活躍を見せてもらい、私も勉強したい」とあいさつ。続けて、事務局が注意事項を説明した。その後、参加者は突如試験体の作製や



國生支部長



荷重をかけてブリッジの強度を測定

一軸圧縮試験に取り組み、試行錯誤を重ねて配合を決定。続けて、予め定められたシマーや網などの道具で作品を完成させ、プレゼンと測定を実施した。

ソイルブリッジは砂や碎石、山砂、ローム、粘土の5種類を基に、高さ6cm、奥行4cm、長さ60cmの型枠で作製した。日本大学が横浜国立大学を僅差かわり、2年連続の総合優勝を

果たした。評価基準の一つとなるソイルブリッジ値は、16で、耐荷重は参加者中で最高値の10・16kgだった。懇親会では、各部門賞の獲得者と総合優勝者に表彰状、総合優勝者にはトロフィーが手渡された。その後、國生支部長が講評し、「全チーム唯一、耐荷重5kgを超えて総合優勝を果たした日本大学チームのブリッジは真実だった」と学生らの力を絶賛した。

総合優勝を果たした日本大学理工学部社会交通工学科生の串松裕介さんは、総合優勝の最大の勝因をチームワークとコメント。また、技術的な点については「締め固めの回数を多めにした事が、好結果に繋がったと思う」と分析している。一方、同学科の峯岸邦夫准教授は「生徒らにかけたアドバイスは殆どなかったが、網をうまく活用出来ていたと学生を評価した。

# 創意工夫しブリッジ作製

